
[成果情報名] 電照ギク新品種「 0 2 W 2 」および「 0 2 Y 6 」の育成

[要約] 秋ギク系電照ギクの白系品種として、収穫日が「神馬」と等しく、側枝が少なく草姿が優れる「 0 2 W 2 」、また黄色系品種として、収穫日が「精興の秋」より約10日早く、濃黄色で草姿が優れる「 0 2 Y 6 」を育成した。

[キーワード] 秋ギク、電照抑制栽培、品種育成

[担当部署] 花き部・花き育種チーム

[連絡先] 092-922-4958

[対象作物] 花き・花木 [専門項目] 育種 [成果分類] 品種育成

[背景・ねらい]

秋ギク系電照ギクは、本県の主要花きとして八女地域を中心に県下各地で栽培されている。主たる品種は白系では「神馬」、黄色系では「精興の秋」であるが、「神馬」は側枝数が多く、3～4月出し栽培で開花遅延を起こしやすいこと、また「精興の秋」では消灯からの到花日数が高いこと及び葉の斑点症等の生理障害の発生が問題となっている。

そこで、花形、草姿が優れ、側枝数が少なく、早生性の品種を育成する。（要望機関名：生産流通課、朝倉・八女・飯塚・田川普及センター、JAふくれん（H9、13、15））

[成果の内容・特徴]

1．平成14年に本場保有の白色系及び黄色系秋ギク系統群1,100株を集団栽培し、集団内で交配を行い約10,000粒の種子を得た。15年度に、得られた実生株の中から花容・草姿の優れる系統の1次選抜を行い、16年度に電照抑制12月出し栽培で特に有望な系統を選抜した。

2．白色系統の「 0 2 W 2 」は、収穫日は「神馬」とほぼ等しく、側枝数が少なく省力的である。葉は立ち葉、花弁は平弁で抱え咲きであり、花径が大きい（表1、図1）。

3．黄色系統の「 0 2 Y 6 」は、収穫日が「精興の秋」より約10日早く、花茎の伸長がよい。花弁は平弁で、濃黄色であり、花径は「精興の秋」と同程度である（表2、図2）。

[成果の活用面・留意点]

1．本県の特産品種として品種登録を申請する。

2．従来の品種と比較して栽培が容易であり、また、本県特産のキクとして有利販売を行うことにより産地の活性化が図られる。

3．黄色系の「 0 2 Y 6 」は節間伸長しやすいことから、生育中にわい化剤を使用して草姿を整える。

[具体的データ]

表 1 .02W2の特性

系統	収穫日 月/日	開花日 月/日	切り花長 cm	葉数	側枝数	重量 g	花径長 cm	小花数	
								舌状花	筒状花
02W2	11/27	12/5	96.8	48.8	21.2	94.8	12.9	161	128
神馬	11/27	12/3	107.3	50.1	36.6	102.6	12.5	167	80

注) 9月2日定植、10月14日消灯

表 2 .02Y6の特性

系統	収穫日 月/日	開花日 月/日	切り花長 cm	葉数	側枝数	重量 g	花径長 cm	小花数	
								舌状花	筒状花
02Y6	11/29	12/5	112.7	40.7	22.8	88.3	11.8	170	62
精興の秋	12/8	12/16	85.5	36.7	14.5	75.6	12	160	142

注) 9月2日定植、10月14日消灯



図1 02W2



図2 02Y6

[その他]

研究課題名：秋ギクおよび夏秋ギクの新品種の育成

予算区分：経常

研究期間：平成16年度（平成15～18年）

研究担当者：谷川孝弘、松野孝敏、黒柳直彦、國武利浩、巢山拓郎、坂井康弘